

平成24年5月14日
於：ブライトホール

世田谷区基本構想審議会第2部会（第2回）

議 題

1. テーマ別の検討について
2. その他

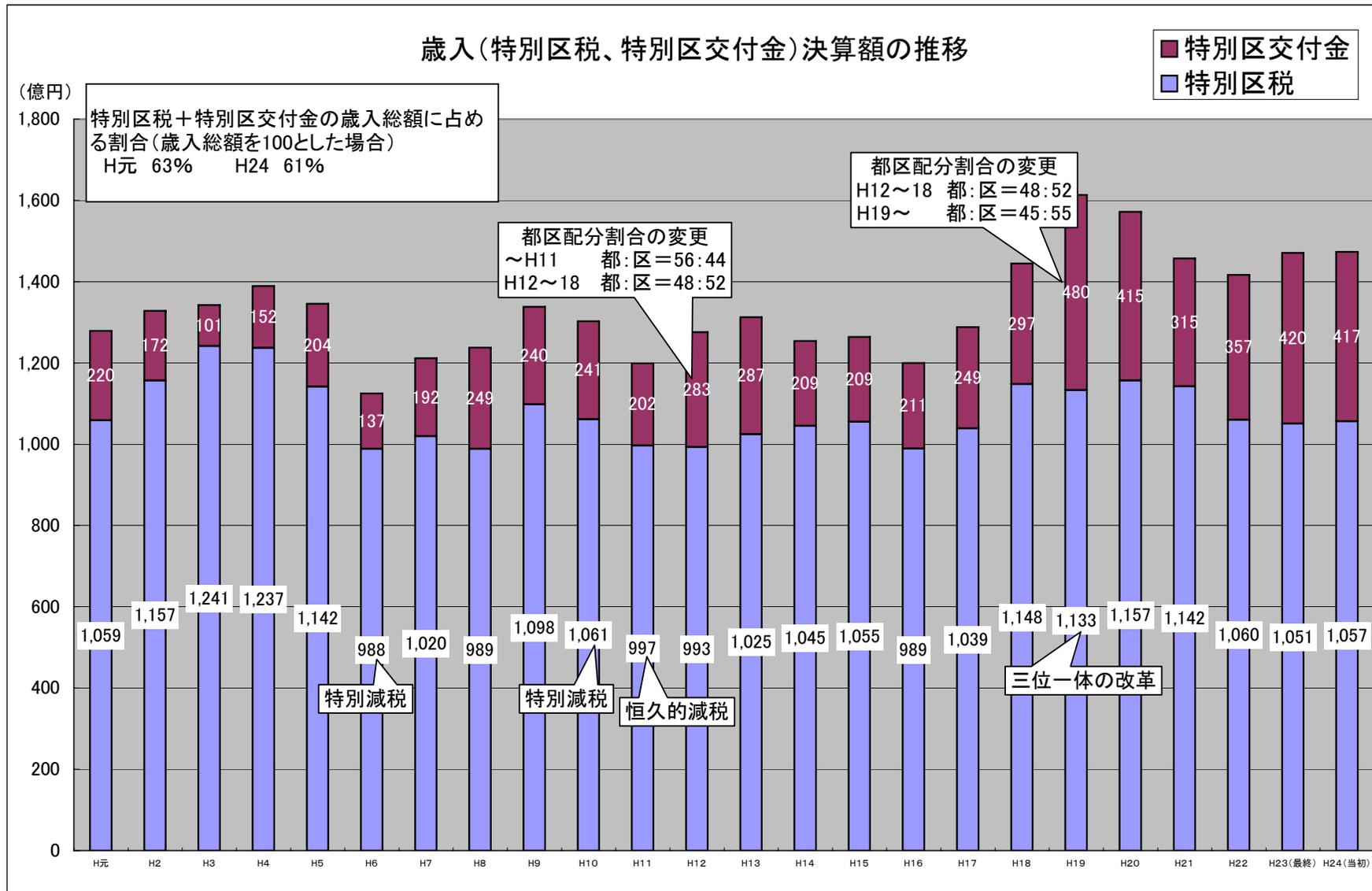
《配付資料》

- 資料1 歳入（特別区税、特別区交付金）決算額の推移
- 資料2 年齢階層別の人口の推移
- 資料3 世田谷区における年齢別課税者数および区民税額
- 資料4 世田谷区の家族類型別世帯数の推移予測
- 資料5 部会の議論テーマと論点

《次回予定》

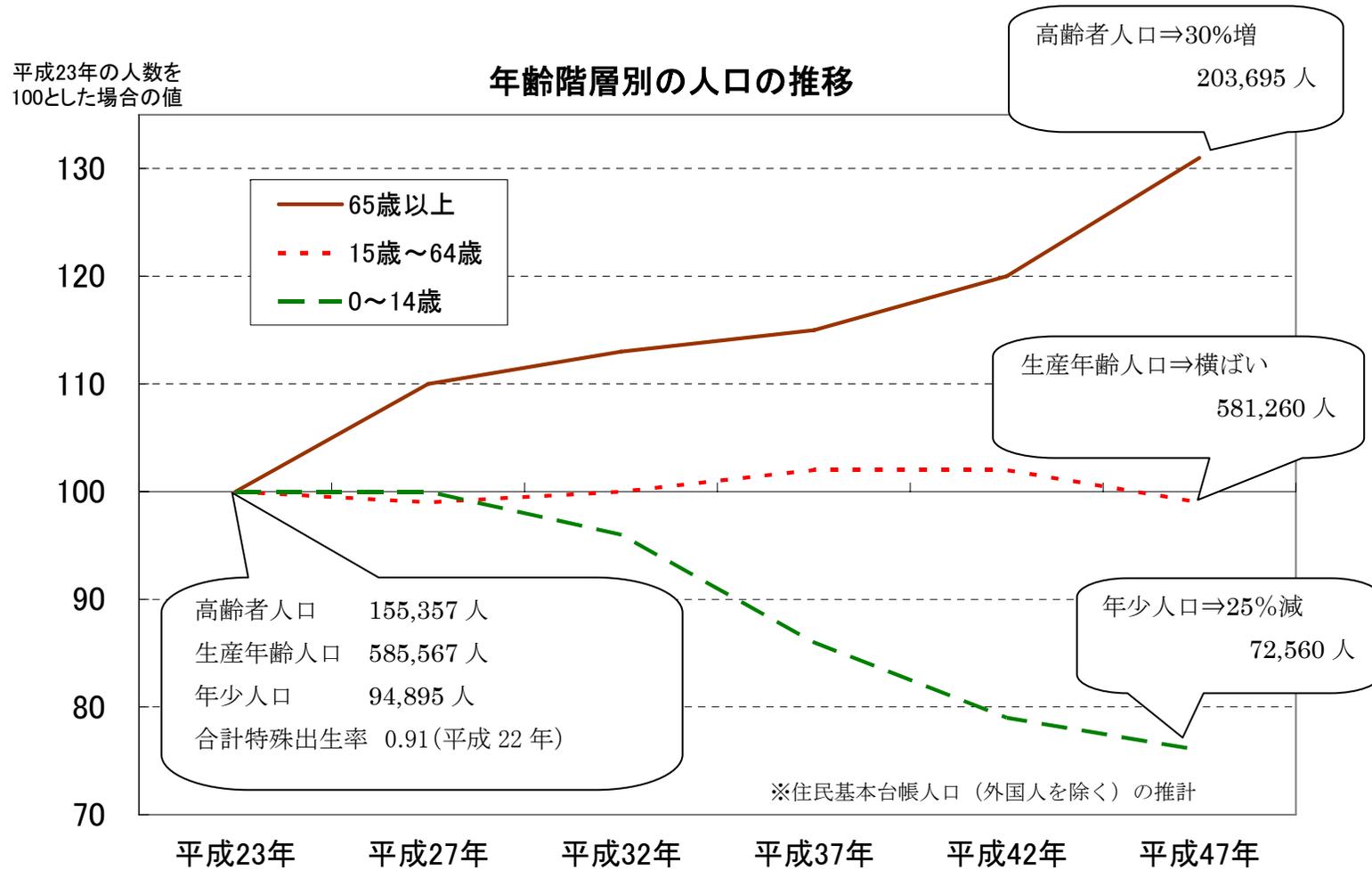
第2部会（第3回） 6月20日（水）18時30分

区役所第1庁舎5階 庁議室



年齢階層別の人口の推移

高齢者人口（65歳以上）は、団塊世代（昭和22～24年誕生）の高齢化等により、大幅に増加していく一方、年少人口（0～14歳）は、少子化の影響が顕著になっていく。また、生産年齢人口（15～64歳）は、転入が転出を上回るため、概ね横ばい傾向と推計される。



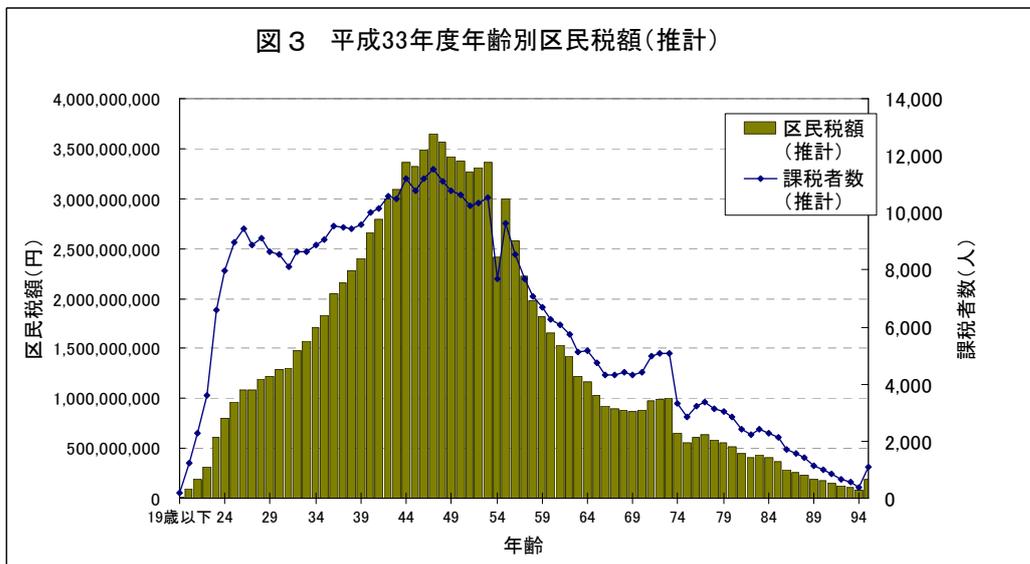
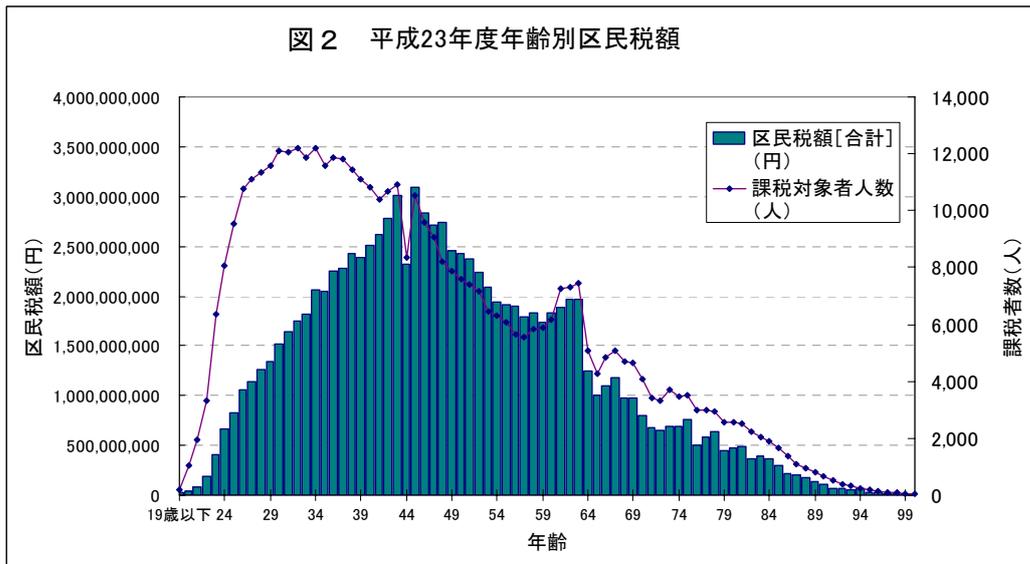
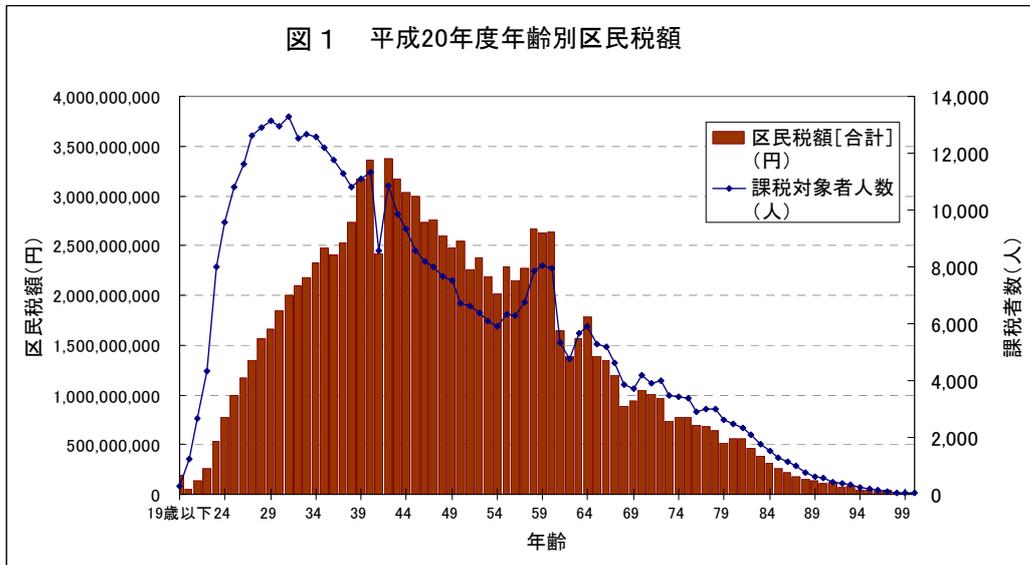
世田谷区における年齢別課税者数および区民税額

谷区における年齢別課税者数および

1 年齢別区民税額の推移 (平成20年度、23年度、33年度 (推計))

区民税額」より

下記の図は、世田谷区における年齢別の区民税課税対象者の人数および年税額について、リーマンショック (平成20年) の前後の実績と、平成33年度の推計を比較したものである。



注) 平成24年2月の課税データによる。課税者には外国人、住民登録外居住者を含む。平成33年度の推計値は、各年齢の課税者の割合と平均課税額が23年度の実績値と変わらないものと仮定し、人口推計結果(平成23年)から推計したものである。

表1 人口、課税者数、区民税額（総額）の推移

年度	人口（人）	課税者数（人）	区民税課税総額（百万円）
平成20年度	825,782	469,016	111,131
平成23年度	835,819	463,564	98,637
平成33年度(推計)	855,372	470,858	109,204

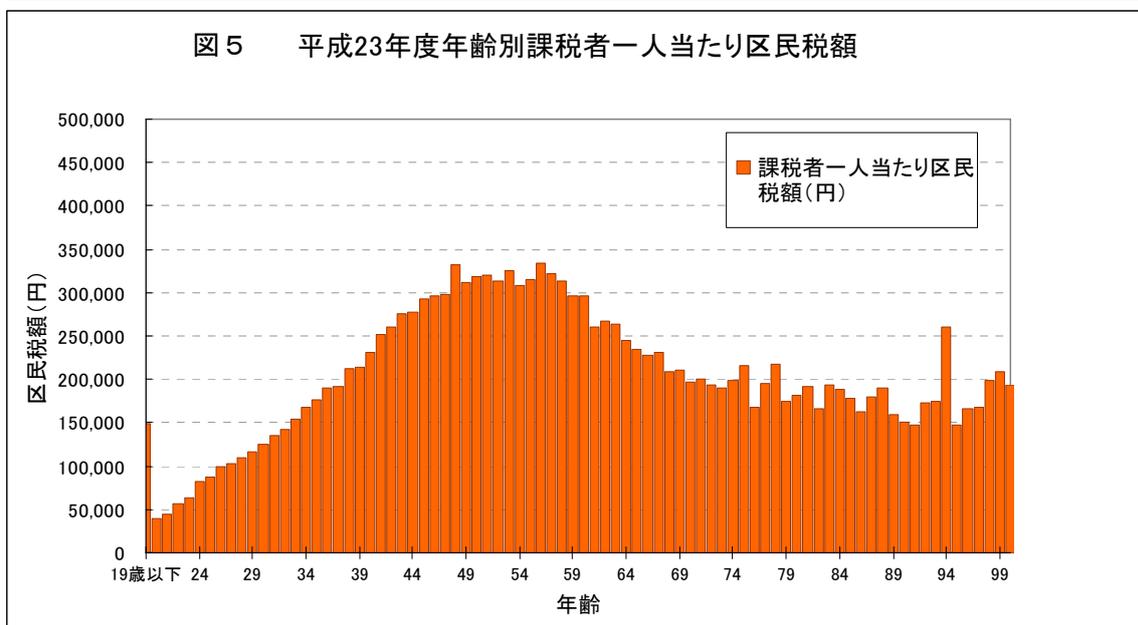
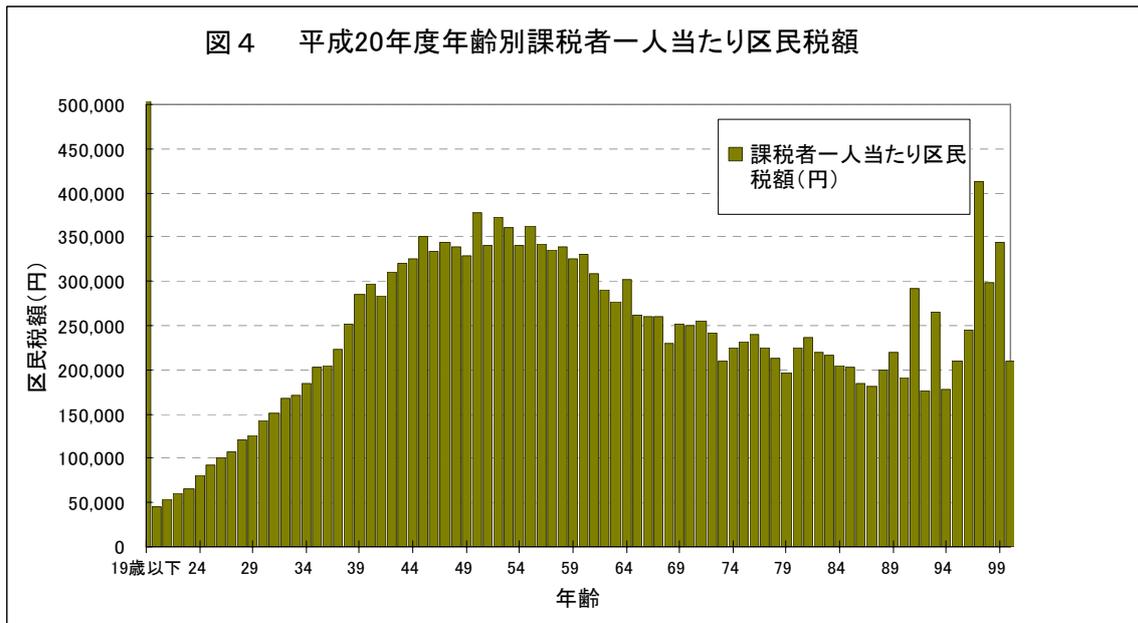
※人口は、各年の1月1日の住民基本台帳人口（平成33年は推計値）。課税者数は、外国人登録者人口、住民登録外人口を含む。平成33年度の課税推計値は、平成23年度と外国人・住民登録外居住者の割合が変わらないものとして、人口推計結果（住民基本台帳人口）から推計したものの。

リーマンショック後の平成23年度（図2）を見ると、区民税額を表す山が全体的に低くなっていることが見て取れる。区民の平均所得の減少を反映しているものと思われる。

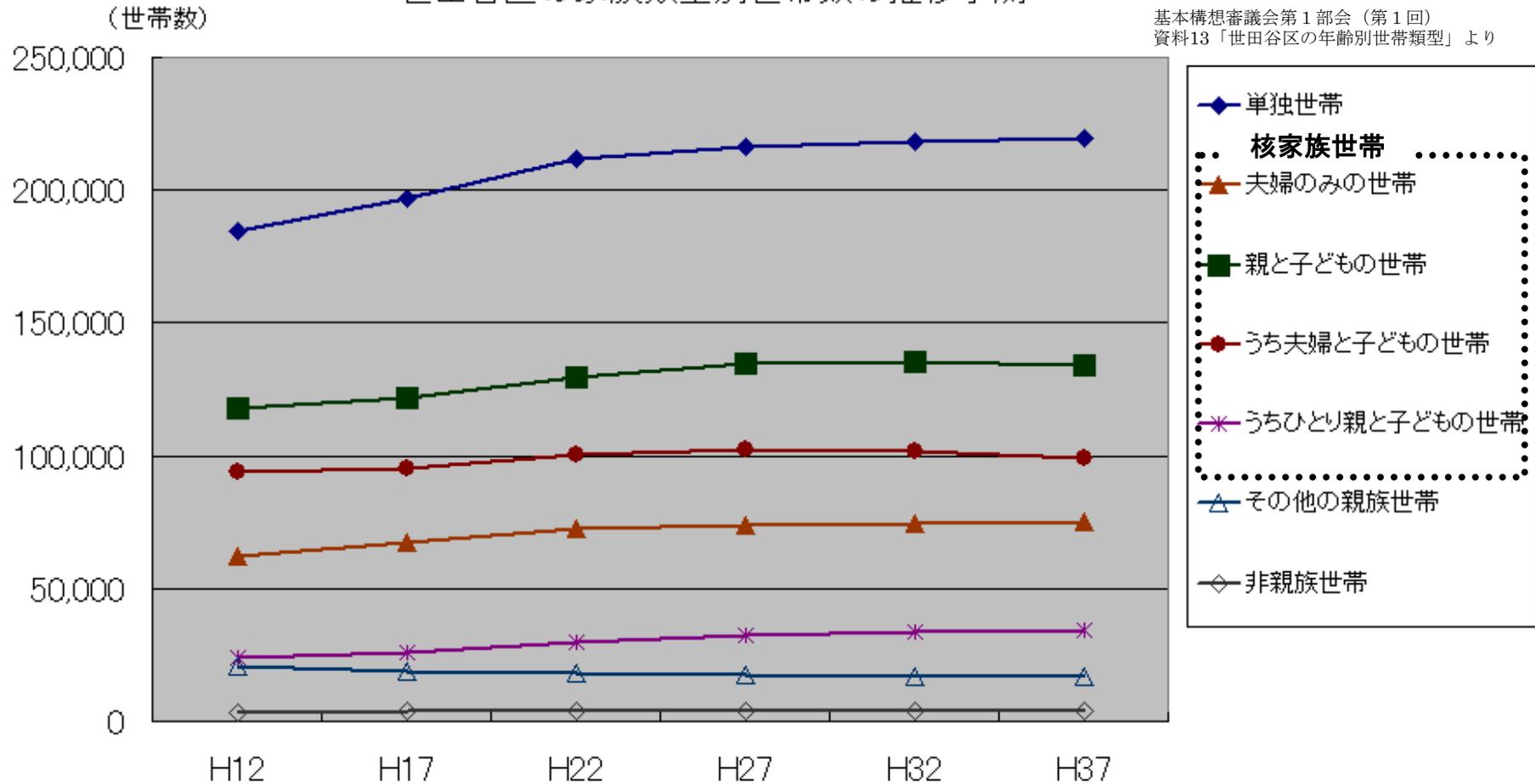
平成33年の推計では、現在最も人口が多い30代の区民（団塊ジュニア世代に相当する）が40～50代となり、一人当たりの所得と課税額が高い層の人口が増加するため、税収が増加するという結果となっている。

2 一人当たりの区民税額（平成20年度、23年度）

下記の図は、平成20年度と平成23年度の年齢別の一人当たりの区民税額の比較である。リーマンショック後には、30～50代の働き盛りの税額が、3～5万円程度落ち込んでいる。



世田谷区の家族類型別世帯数の推移予測



出典:『東京都世帯数の予測 平成21年3月』東京都

※ただし、平成12年、平成17年は国勢調査の実測値

世田谷区の総世帯数は約40万世帯(H17)で、そのうち単独世帯は48%を占め、家族類型では最も比率が高い。推計では、この比率がH37まで続くと考えられている。区の1世帯あたり人員は平均1.9人(H22.国勢調査)で、都の平均2.0人よりも少ない。

「部会の議論テーマと論点」

基本構想審議会第2部会 (H24. 5. 14)
資料5

第2部会 【視点】街づくり、防災、環境・エネルギー、産業・仕事、芸術文化

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
世田谷らしい安全で住みやすい快適な環境のまちを守り育ていくための将来の都市像について	<ul style="list-style-type: none"> 区における防災の街づくり、土地利用のあり方等の検討について 「世田谷みどり33」の更なる推進、交通ネットワークの充実など、質の高い住まい・まちづくりを進めていく方法について 	街づくり 防災
高齢者が暮らしやすい住環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者にやさしい木目の細かい公共交通のありかた コミュニティバス、電気自動車の送迎サービスなど 若い人と共に暮らすシェアハウスの実現 	交通ネットワークの見直し 35,000 戸の空き家の利活用
安心して子供を育てられる環境整備時代の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> お互いに顔の分かるスケールの防犯・防災環境の実現による都心型コミュニティの再生 インターン制度による若年層の社会度の底上げ 	絆やコミュニティ、新しい家族（集住）の構築
世田谷区の歴史・文化・景観の再評価建物の保存再生による文化の継承と財源の保全	<ul style="list-style-type: none"> 農地、宅地、商業地への変遷を経験した世田谷区の歴史・文化・景観の再評価と今後の保全体制 屋敷林保全への取り組み 小学校の改修による再生促進 	住民参加型都市デザイン、緑地の保全、遺産相続と資産解体の課題
街・緑＝世田谷田園都市構想	<ul style="list-style-type: none"> 緑地比率を高めるための確かな道筋 地域公園の一部に樹木墓地の設置 住宅地の敷地面積から10平米を削除して、けんぺい率を乗する（×）世田谷建築条例の設置 	樹木墓地一死を忌みずる哲学から、子どもが死を身近に学習して人生を学ぶ社会へ。
市民活動を区が誇ることのできる資源としてアピールするとともに人材育成を	<ul style="list-style-type: none"> ソフト・ハードの資源としての市民活動とその現場、都市デザイン時代のストック 大学でせたがやをフィールドに学んだ人々で、まちづくりの現場に入っている人が少なくない。 →市民活動やまちづくりの現場を、地域観光・学生の社会体験（⇔大学の9月入学）のフィールド、学びの場として PR。まちづくりを担う人材育成や定住へつなげ、せたがやで学ぶ若い人材のパワーをまちづくりに還元する。 	街づくり・産業・仕事・教育

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
区民がまちづくりに主体的に関わる	<ul style="list-style-type: none"> この基本構想・基本計画の策定過程を、一つの機会とできるといい。 	コミュニティ・地方自治・街づくり
災害時における、実効性の高い対策と態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> 防災と減災を目的とした災害対策の充実について これまで区が進めてきた災害対策における課題の抽出・検討について 	防災
災害に備えた事前復興とそのための空間整備 オープンスペースの拡充	<ul style="list-style-type: none"> 災害時のためのオープンスペースの確保 防火帯としての緑の連鎖 全区レベルの公共用地拡充の計画 	連続立体交差事業の実態 未利用資産の利活用
健全で恵み豊かな環境を将来の世代に引き継ぐ、みどりとみずの環境共生都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> 区民・事業者・行政が協力して、残された貴重な自然環境を守るための方法について 環境に対する意識の高まりなどに伴う様々な取組みに支援するなど、低炭素社会への移行を推進する手段について 	環境・エネルギー
低炭素型社会の実現 新エネルギーの開発	化石燃料に頼らないまちづくり 自転車ネットワーク、レンタル自転車事業の促進	代替エネルギーの開発、車に頼らない社会への転換
地域ごとのエネルギー供給源の開発	地域ごとの地熱エネルギーの開発、共同井戸の掘削、地域ごみの燃焼からエネルギー採取？	エネルギーの複線的使用、地域共同でコミュニティの再生か。
自転車ロードの整備 公共レンタルサイクルステーション	新たに作るのではなく、既存の小さい生活道路をつなぎあわせるロードと乗り捨てサイクルステーション整備	省エネ 健康づくり
世田谷区における地域産業の新たな役割と展開など、世田谷産業の将来像の実現	<ul style="list-style-type: none"> 世田谷の特色を活かした新たな地域産業の展開と活性化や、人材育成とその活用など、時代の変化に対応した産業の振興を図る方法について 	産業・仕事

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
若年層のための新産業の創生 コミュニティービジネスの促進 新しいタイプの賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメントによる新ビジネスモデルの開発 ・商業+αによる複合型まちづくりによる賑わいの創出 	商業+新規知的産業の開発 複合産業のマッチング
世田谷での起業支援	世田谷区は大企業本社のない住宅地だが、これからの高齢社会向けサービス業、教育保育業などへのニーズは高いが、十分な供給がない	子育て後の女性、引退後の男性を社会の担い手に
女性人材バンクの整備		
心に潤い、ゆとりを感じることができる区民生活、地域社会の創出“文化都市せたがや”の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・文化資産を活かした文化施策やまちづくり、区民の文化・芸術活動への支援、情報発信など、将来にわたって地域文化や伝統文化を継承、発展できるようにするための推進策について 	芸術文化
感性のあるマチュアな（円熟した）世田谷区民の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に触れる機会の拡充。 ⇒音楽・演劇などの稽古場の拡充に、民間施設の活用、 ・芸術文化人材教育機関の設立（演劇塾、美術塾） 	民設を誘導する施策。あるいは民設公営の拡充。芸術文化にかかわる雇用の創出
本を読む区民、公立図書館をもっと身近に。学校区と同様の範囲に図書館の窓口設置。	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷中央図書館のさらなる活用。 図書ネット検索、住まいに身近な区の施設窓口へ届けるサービスを 	本運搬のNPOの活用、適正なサービス価格の設定

第1部会 【視点】コミュニティ・地方自治、情報・コミュニケーション

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
住民参加による政策形成・まちづくりの推進	世田谷区の政策形成に、住民参加がどのように行われるべきか。地方自治法に基づく区議会との関係を含めて、住民参加はどのような形で実現されるべきか。	コミュニティ・地方自治
サイレント・マジョリティからの意見の集約	<ul style="list-style-type: none"> ・5地域から先ず、政策要求をかかげ、本庁で決定。 ・5支所に最もよき人材、コミュニケーション力、もっとも実力ある公務員を配置 	ボトム・アップ（地域密着）の視点
住民参加につながる情報開示・情報提供の推進	区民による住民参加を保障し、促進するために、区は区民にどのような情報をどのような手法で提供すべきか。また、区は区民にどのように情報発信していくべきか。	情報・コミュニケーション
地域コミュニティの活性化とネットワーク化	<p>特に災害時には地域のコミュニティが果たす役割は大きい。町会・自治会・NPOなど地域での活動の基礎となるグループの平常時におけるあり方・当該グループへの区民参加のあり方はどのようにあるべきか。</p> <p>地域コミュニティの活性化を図るための区民と区民、区民とグループ、グループとグループとの情報交換・ネットワーク化のあり方はどのようにあるべきか。</p>	コミュニティ・地方自治 情報・コミュニケーション 防災
安心して子供を育てられる環境整備 時代の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに顔の分かるスケールの防犯・防災環境の実現による都心型コミュニティの再生 ・インターン制度による若年層の社会度の底上げ 	絆やコミュニティ、新しい家族（集住）の構築
地域とともにある地域行政体制の推進	また、世田谷区は地域において行政サービスを提供するとともに、地域でのまちづくり活動を推進するために、地域行政制度（総合支所・出張所・まちづくりセンター）により地域に施設と人員を配置している。地域とともにある総合支所、出張所・まちづくりセンターのあり方について。	コミュニティ・地方自治
事務局のあり方について	同じ世田谷区民として、本当に素晴らしい基本構想を作り上げようとするのであれば、事務局側も当事者意識をもち、一緒に踏み込んだ議論していくことをしないと成功しないのではないのでしょうか？	

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
「幸せとはなにか？」について	<p>この会議体で個々の論点について議論する前に、メンバー全員で、「幸せとはなにか？」についてゼロベースで、意見交換・ブレインストーミングしていき、この会議体の本質・目的を一致させたうえで、具体的な議論にすすみたいと考えます。</p> <p>論点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かさ」「便利さ」というのは、人々の「幸せ」には必ずしもつながっていないのでは？（「幸せ」とは必ずしも、「豊かさ」「便利さ」を考える事とは違う） ・「すばらしいまちづくり」を考えることは、つきつめていくと、構想が果たして区民の「幸せ」に結びついているのか？ 	「幸せとはなにか？」について議論したい
基本構想策定にあたり、区民の意見を具体的にどのように吸い上げていくか	<ul style="list-style-type: none"> ・区民からどのような意見を吸い上げたいか、など具体的な内容まで踏み込んで議論したい ・より具体的な意見収集のスケジュール案の策定、また具体的手法（アンケートの内容、子供たちからの意見収集の方法）まで議論したい 	
子供教育と参加型の商店街の可能性	<p>こどもたちのためのキャリア体験パーク キッズニアが人気だが、あのような体験型はわざわざテーマパークにいかないとできないのか？ と素朴に感じます。 身近の商店街でこども体験を支援し、地域密着、コミュニティー推進。こども教育支援などにつなぎ、魅力あるまちづくりにつながればいい。</p>	

第3部会 【視点】福祉・保健医療、子ども、青少年、教育、男女共同参画

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
誰もが安心して地域で自立した生活を継続できる社会の実現	障害や認知症などを区民が理解し、地域で支えていくためにはどのように取り組むべきか。	福祉 地域コミュニティ
誰もが社会参加を進め自立した生活を継続できる社会の実現	発達障害者の就労支援、ジョブコーチの活用。得意分野を伸長するにはどうしたらいいか。	福祉・仕事 (発達障害者への就労支援の現状を記した資料希望)
誰もが社会参加を進め自立した生活を継続できる社会の実現	パート勤務をより積極的に活用（フレキシブルな勤務時間）手に職付ける講座の実施	産業、仕事
社会参加を進め、生きがいを感じられる社会の実現	高齢者や障害者の社会参加の機会や働く場の確保など、社会で活躍できる場をどのように創出するか。	福祉 産業・仕事
高齢者が暮らしやすい住環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい絆のあり方 ・若い人と共に暮らすシェアハウスの実現 	35,000戸の空き家の利活用
区民が生涯にわたり健やかでこころ豊かに暮らすことができる地域社会の実現	区民が主体的に自分で健康保持・増進を図るようになるにはどうすればよいか。また、そのための環境整備はどうしたらよいか。	保健医療
子どもの成長の支援	子どもたちが自分を大切にし、すこやかに育つことのできる社会のあり方について。	子ども、教育
子どもの成長の支援	小児心身症や発達障害への早期発見・支援（幼稚園や小学校に専門家派遣、療育へのパイプ強化）するにはどうすべきか？	福祉・子ども教育
子どもの成長の支援	子どもの才能、得意分野を専門家が発掘する場が少ない（奨学金など資金面のバックアップの問題）。	子ども教育
子どもの成長の支援	IT教育（タブレット端末など）を先進的に推進させるにはどうすればよいか？資金は？	子ども・教育

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
子どもの成長の支援	<p>子どもが政治参加の意識を向上するには？</p> <p>小学生の授業で政治・経済についてのディスカッション、ディベート授業を実施しては</p>	<p>子ども 教育</p>
子どもの成長の支援	<p>いじめ問題に対する支援は現状行き届いているか？効果的な対応策はないか。</p>	<p>子ども・教育 (いじめに関する実情を調査した資料)</p>
子どもの頃から、子どもを産み育てることを含めた生き方を体験しながら考える	<ul style="list-style-type: none"> ・適齢期の女性でも、出産・子育てについての知識や暮らしのイメージを持ておらず、結果として機を逃してしまう人も多い。(積極的に子どもを持たない人が多い訳ではないのではないか？＝個人の問題ではなく、社会の問題では？) →小中(高)継続的に通して、生と性、学びを通した社会での自己実現（広い意味でのワークライフバランス）など、自分の生き方について考える機会をもつ。(イメージとして、赤ちゃん抱っこ、2分の1成人式、トライやるウィークの一日子育て版…など) 	<p>子ども・青少年・仕事・教育・男女共同参画・保健</p>
地域で実現する、親子を孤立させない子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・課題として、母親が悲鳴を上げる一歩前に活用できるサービスが少ない（事前登録が必要などハードルがある） ・核家族、少子化時代、子どもは親に過度に依存せず、日々多くの人々の中で育つ環境を得ることも権利では。 →リフレッシュ保育はもとより、勤労の有無にかかわらず誰でも、いつでも保育を受け入れられるように。 (若い人は家事も子育ての苦勞もしないのかという意見もあるが、子育てはひとりで無理しないことが大切。他で努力や社会貢献をすればよいと思う。) 	<p>子ども・仕事・男女共同参画</p>
地域とともに、未来を担う子どもを育てる	<p>これからの社会を生き抜く力を持つ子どもを育成するためには、どのようにすべきか。</p>	<p>子ども、教育</p>
地域と共に未来を担う子どもそして親を育てる	<p>母親の就業支援する中で、子育ての空洞化（保育所に丸投げ？）を危惧する。 親行も同時に支援すべきでは？</p>	<p>子ども 教育</p>

テーマ（目指すべき目標、将来像）	論点（目標達成のための課題、解決すべきこと）	視点（他部会も含め関連するもの全て）
「学び」の場としての学校の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟もいとこもいなかったり、少ない子どもがたくさんいる。校内での学年交流・地域での多世代交流の促進が大切。 ・毎日同じ仲間と長時間を過ごす学校だからこそ、社会で生きるための力をじっくり育めるのではないかな？ →自分の気持ちを伝える力、協働する力、実行する力など。少人数制や学年を超えた取組みも大切ではないか。 ・地方都市に比べて、私立の学校に進学する子どもが多い。公立小中高で、学力が育つのかどうか不安を感じる、私のような地方出身者も多いのではないかな。 →教員の育成に力を入れる。 ・地域の人や環境の中で育つことを大切にしてほしい。 →多世代交流、地域の資源を活かした環境・社会を体験する教育を大切に。 	教育
幼稚園事情（入学できない可能性があるという危機）	<p>近くにいくつか幼稚園があるのに、調べたところ定員オーバーで試験で落ちる可能性があるということ、またどの幼稚園も同じ日に試験があるので併願が難しいということが懸念です。近くに住んでいるのに、近くの幼稚園に通えないというのはいかがなものでしょうか？</p>	
公立小学校の事情（1学年1クラス、クラスの生徒数10名代）	<p>家の近くには徒歩20分圏内に小学校が3校あると思いますが、学区内の小学校は1学年1クラス、クラスの生徒数は10名少々です。これでは都内の中の過疎、という状況です。クラス替えのない6年間を送らせるのは・・・と尻込みしてしまいます。こういった事情は果たして子供にとっていいものなのか、</p>	
教育における国際化	<ul style="list-style-type: none"> ・他文化・他人種型の社会の構築 	国際化の促進
男女がそれぞれの個性と能力を十分発揮できる社会の創出	<p>男性も女性も性別に関わりなく、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、伸びやかにその人らしく生きることができる社会の創出に向けて、あらゆる分野での男女共同参画の促進を図るにはどのようにすべきか。</p>	男女共同参画